

Marx



『現代思想』マルクス増刊号刊行記念イベント

マルクスと現代思想 負債、民主主義、自然

日時 2017年7月1日(土)
午後3時～

会場 大阪市立大学学術情報総合
センター6F セミナールーム

参加費無料

問い合わせ先 斎藤幸平 saito@econ.osaka-cu.ac.jp

主催 大阪市立大学・経済学会主催

登壇者

酒井隆史

大阪府立大学教授

山本 圭

立命館大学准教授

斎藤幸平

大阪市立大学准教授

コメンテーター

百木 漠

日本学術振興会特別研究員

『資本論』第一巻刊行から150年。「偉大なるマルクス」の主著は、哲学、経済学、政治学、歴史学など多岐にわたって、様々な議論を呼び起こしてきた。だが、今日マルクスの思想は急速に影響力を弱めており、危機に直面している。19世紀の思想家であるマルクスのテキストを21世紀のわれわれが読む意味はなんだろうか？

単なる訓詁学にならないためには——正しいマルクス解釈を追究するのは重要だとしても——、その現代的な意義（アクチュアリティ）を示さなくてはならない。それが最終的にマルクスを批判することになろうとも。

デヴィッド・グレーバー、エルネスト・ラクラウ、ジェーン・ムーアはマルクスの理論を独創的な形で参照しながら、金融化、民主主義、環境破壊といった現代社会の諸問題を概念化し、批判しようと試みている。雑誌『現代思想』で繰り広げられた様々な議論を手掛かりに、マルクスの「現代思想」的解釈の可能性について共に考えてみたい。

『現代思想』2017年6月臨時増刊号 総特集＝マルクスの思想（青土社）

2017年5月22日発行／本体1900円＋税／978-4-7917-1345-5

酒井隆史「赤と黒のあいだのマルクシズム」

山本圭「傍流の位置から——ポスト・マルクス主義のマルクス」

斎藤幸平「人新世のマルクス」他

